

## 審査員評③

佐久間泉真（札幌演劇情報サイト d-SAP 編集長、俳優）

審査において私が最も重要視したのは、「支援の必要性和目的が申請書において明確に表現されているか」です。企画されるアートプロジェクトの面白さや、申請者の関心と私の関心との共通点などではなく、あくまでも本助成事業の趣旨を理解しており、申請書がしっかりと書けているかを大切にしました。

本プロジェクトは、札幌市による新事業「札幌市文化芸術創造活動支援事業」の助成によるもので、札幌市を活動フィールドにしているアーティストが対象となっています。私は6年ほど前より札幌演劇情報サイトを運営しているということもあり、札幌演劇の現状を把握したある種の「専門的意見」を述べることを期待されて、大変恐縮ながら審査員を引き受けました。

しかし、現状は残念ながら札幌の演劇関係者からの応募は想像よりも少なく、そのほとんどが現代美術の領域でした。演劇分野でさえ期待される役割を務め上げることができるか不安だったのに、現代美術となれば審査はますます困難でした。

申請書類を受け取ってからしばらくは自分の中の審査基準を整えることに苦労しましたが、読み込むうちに、「その方がなぜ支援を必要としており、支援を受けることでどのように新たな活動領域を開拓しようとしているのか」が明確に読み取れる方と、そうでない方がいることがわかりました。もちろん、申請書の限られたスペースに書かれていることがその方の想いのすべてではないことは承知しておりますが、主としていない分野領域の審査においては、申請書に書かれていることを主軸に判断することが適切だと考えました。

表現活動支援プログラムであれば、普段フィールドとしている以外の場所で、新たなコミュニティとの接点を期待していることが明確に表されている方、特にコロナ禍など様々な要因によりこれまで活動フィールドを拡張することが困難であったなどの経緯がよく読み取れる方を選出させていただきました。

創作活動支援プログラムであれば、北海道内各地のAIR拠点で何をしたいのか（つまり、なぜその地域でなければいけないのか）に加えて、これまで自分一人では長期的な創作期間を持つことができなかつた理由を書き示している方を優先的に選出いたしました。

どの方のプロジェクトもとても魅力的で、他の審査員と意見を一致させることは困難でしたが、私にとっても大変勉強になりました。採択された方の取り組みは引き続き注目させていただきます。来年度以降もこのような助成事業が継続されることを願っています。